

## 研究題目

# 国語科における“自らの学習を調整する”生徒 の育成を目指した【振り返りシート】の研究 ～生徒の記述の変容に着目して～

## 目次

1. 研究のねらい
2. 研究の経過と内容
  - (1)「自らの学習を調整する」とは
  - (2)昨年度(令和2年度)までの【振り返り】活動の実践
  - (3)今年度(令和3年度)の【振り返り】活動の実践
3. 研究のまとめ

## 1. 研究のねらい

平成 29 年度改訂学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善と評価が求められており、国立教育政策研究所『学習評価の在り方ハンドブック』には、「『児童生徒にどういった力が身に付いたか』という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも、学習評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められます。」<sup>1)</sup>と述べられている。また、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の方法として、「『粘り強い取り組みを行おうとする側面』と『自らの学習を調整しようとする側面』という二つの側面から評価することが求められる。」<sup>2)</sup>と述べられている。

そこで私は、国語科の学習における『自らの学習を調整しようとする側面』の指導と評価の一体化を目指し、【振り返りシート】に着目することにした。“自らの学習を調整する”生徒を育成するためには、国語科の学習の場面でどのような振り返りシートを用いるのがよいのか、実際の生徒の姿から分析していくことが本研究のねらいである。

## 2. 研究の経過と内容

### (1)「自らの学習を調整する」とは

本研究を行う上で、「自らの学習を調整する」とはどのようなことか明確にする必要がある。文部科学省国立教育政策研究所によると、「自らの学習を調整する側面」とは、

生徒が自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤することなどの生徒の意思的な側面のことです。評価に当たっては、生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を、単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていくことが重要です。

と述べられている<sup>3)</sup>。

つまり「自らの学習を調整する」とは、「自らの学習状

況を把握し、学習の進め方などを試行錯誤すること」であり、「教師は生徒がそれをできるような場面を設ける」ことが重要だということである。

### (2) 昨年度(令和2年度)までの【振り返り】活動の実践 ・平成 29, 30 年度

平成 29 年度に初任者として採用され、中学校国語科教諭として授業を行い始めたが、当時は振り返りシートどころか、振り返り活動自体を行うこともほとんどなかった。

### ・令和元年度(平成 31 年度)

学びをアウトプットする機会を設けることで、授業を通して学んだことがより定着するのではないかと考え、振り返りを書く時間を設けることにした。ワークシートの終末に振り返りを記述する欄を設け、そこには具体的な問いは書かず、「振り返り」とだけ記載し、生徒が自由な視点で振り返りを書いていた。

ワークシートに欄を設けたことで、導入から終末までの流れが 1 枚のワークシートで完結するという点では良かったが、生徒が「学びを蓄積する」という面や、「前後の学習とのつながり」を意識するという面では、有効ではなかった。また、自らの学びを振り返るといよりは、

「1時間集中して考えることができてよかったです。」

「最初はめんどくさいと思ったけど、考えていくうちにだんだん楽しいと感じるようになりました。」

といった、授業に対する感想に近い記述がほとんどであり、生徒としても何を書けば良いのかが明確になっていないと感じた。



#### 令和元年度実践

【方法】ワークシートの最終部分に「振り返り」の欄を設け、生徒が自由な視点で振り返りを記入する。

【良さ】導入から終末までの流れが1枚のワークシートで完結する。

【課題】「学びを蓄積する」「前後の学習とのつながり」という面で不十分。授業に対する感想に近い記述がほとんどになり、生徒としても何を書けばよいのかが明確になっていない。

・令和2年度

人事異動により、現任校に赴任した初年度である。前年度の「生徒の学びの蓄積」「前後の学習のつながり」という課題を踏まえ、令和2年度からは、振り返りシートをワークシートとは別に用意し、毎時間の終末5分間で書くようにした。A4 の表裏に 10 時間分の振り返りを記

|  |   |                         |
|--|---|-------------------------|
| <p>○で囲もう</p> <p>今日の【なるほど・発見・すっきり・嬉しい・驚き・決意・悔しい・うーん・疑問・その他】</p> |   | <p>国語科 「学びを振り返るシート」</p> |
| 月  | 日 | 小テスト得点                  |
|  |   | 授業内容                    |
| 年  | 組 | 氏名                      |
| <p>↑○で囲む</p>   |   |                         |

入することができる枠で、各1時間分の振り返りシートの内容(生徒が記入する項目)は以下の①～④を設定した。(左図参照)

- ① 日付
- ② 授業内容
- ③ 今日の【なるほど・発見・すっきり・嬉しい・驚き・決意・悔しい・うーん・疑問・その他( )】

↑○で囲む

④ ③について記述  
「今日のなるほど」や「今日の悔しい」などを項目として設定した意図としては、生徒がこの時間に何を学んだのか、何が学べれば良かったのかを、記述できるようにするためである。また、どんなことを書けばい

いのか、生徒にとってわかりやすくなると同時に、楽しみながら意欲をもって記述できると考えたからである。

実際にこの振り返りシートを使ってみると、振り返りシートをワークシートとは別に設けたことで、1枚の紙に1時間1時間の学びが積み上げられていくため、学びを蓄積していくという面では有効だと感じた。

実際の生徒の記述から、分析をしていくために、(生徒 A)～(生徒 D)の4人の記述を取り上げる。中学校2学年『君は最後の晩餐を知っているか』(光村図書)の授業の、ある1時間で生徒が書いた振り返りは以下のとおりである。

【(生徒 A)の振り返り①】

12月15日 授業内容→最後の晩餐  
今日の【なるほど】  
解剖学や遠近法や明暗法がどういうものか分かった。

【(生徒 B)の振り返り①】

12月15日 授業内容→最後の晩餐  
今日の【なるほど】  
今回は筆者が修復後の絵がいいと言っていた理由が分かりました。大事なキーワードを覚えておきたいです。絵の状態のことについても、しっかり分かりました。

【(生徒 C)の振り返り①】

12月16日 授業内容→最後の晩餐  
今日の【嬉しい】  
しっかり音読をしたり、まとめたりすることで、授業前よりも筆者が最後の晩餐を気に入っている理由がはっきりつかめて良かった。

「今日の授業で何が分かったのか」「これからどうしていきたいか」「どのようにしたからわかったのか」が記述されており、『自らの学習を調整しようとする』側面が表れている。

しかし、まだ記述が具体的でないと捉えることもできる。(生徒 B)の振り返りでは、「筆者が修復後の絵がいいと言っていた理由」や「大事なキーワード」が具体的に書かれておらず、(生徒 C)の振り返りでは、「筆者が最後の晩餐を気に入っている理由」が具体的に書かれていない。

一方で、次の(生徒 D)のように、前年度同様単なる感想であったり、しっかり取り組めたかどうかの自己評価で終始してしまったりする記述も見られた。

【(生徒 D)の振り返り①】

12月16日 授業内容→最後の晩餐  
今日の【その他(感想)】  
筆者の考えをしっかりとまとめることができ良かった。

こうした生徒たちに対しても、感想記述に終始してしまふのではなく、学んだことが明確に記述することができたり、これからの学習に向けて生かせることを記述できたり、自らの学びを調整できるような、適切な振り返りシートを作成できないか考えるようになった。

また、(生徒 D)に限らず、「前後の学習のつながり」という面では、まだ不十分であった。1時間1時間の振り返りが1枚の紙に蓄積されていくという面では良いが、そこに「前後の学習のつながり」を意識できるようにしたり、つながりが記述に表れたりするような工夫ができないか考えるようになった。

## 令和2年度実践

【方法】振り返りシートを用意し、「今日の○○」という観点を生徒自ら選び、記述する。

【良さ】生徒が振り返りの観点を自らで選ぶことができる。今日の授業で何を学んだのかが記述に表れる。1枚の振り返りシートに、学びが蓄積されていく。

【課題】単なる感想や、しっかり取り組めたかどうかの自己評価で終始する記述もある。「何を学んだのか」の具体に欠ける。「前後の学習のつながり」という面で不十分。

### (3)今年度(令和3年度)の【振り返り】活動の実践

#### ・「OPPシート」の導入による生徒の記述の変容

ここまで行ってきた振り返りの実践の課題から、次の①～③が、取り入れられると良いと考えた。

①感想記述で終始するのではなく、何を学んだのか、何が学べれば良かったのか、自らの学習状況を把握するような記述ができるようにすること。

②1時間1時間の振り返りで終わるのではなく、前に学んだこととつなげたり、これからに学びをつなげたり、学びを積み上げていくこと。

③具体的な記述で、生徒が自らの学びをアウトプットできるようにすること。

そこで採用したのが、「OPPシート」である。OPPとは「One Page Portfolio」の略で、授業の成果を、生徒が一枚の用紙(OPPシート)の中に学習前・中・後の履歴として記録し、その全体を学習者自身が自己評価する方法である。「OPPシート」は、「Ⅰ.単元タイトル」「Ⅱ.学習前・後の本質的な問い」「Ⅲ.学習履歴」「Ⅳ.学習後の自己評価」の四つの要素から成っている<sup>iv</sup>。

毎時間の振り返りにあたるものが、「Ⅲ.学習履歴」であり、ここで生徒が自らの学習状況を把握できるように、『今日の授業にタイトルをつけてください』『今日の授業で一番大切だと思ったことを書いてください』『感想や質問、これからの決意などを書いてください』と、三つの記述欄を設けた。

タイトルをつけることで、授業全体を振り返ることにつながり、生徒は1時間の授業を端的な言葉で表すことになる。一番大切だと思ったことを書くことで、生徒が授業の中で「何を学んだのか」「何が重要だったのか」を考え、具体的にアウトプットできるようになる。感想を書く欄を別に設けることで、「学んだこと」と単なる「感想」が混在

することを回避できる。また、これからの決意を書くことで、「学習の仕方を試行錯誤する」ことにつながる。

#### 【OPPシート「Ⅲ.学習履歴」の枠】

|                          |                            |           |
|--------------------------|----------------------------|-----------|
| 感想や質問、これからの決意などを書いてください。 | 今日の授業で一番大切だと思ったことを書いてください。 | ② 月 日 ( ) |
| 感                        | 今                          | 今③        |

これらのOPPシートの特徴によって、先に述べた①～③がクリアできると考え、OPPシートを取り入れた振り返りの実践を行った。前年度のやり方と同様に、授業の終末5分間を振り返りの時間とし、振り返りシートに本時の振り返りを記入する時間をとった。生徒の実際の振り返りシートの記述は以下の通りである。

#### 【(生徒A)の振り返り②】

4月27日(火)

今日の授業のタイトル

握手について

今日の授業で一番大切だと思ったこと

なんか同じようなこととか似たところがあったら比べながら読み取ったりするのが大事だと思った。

感想や質問、これからの決意など

自分も、題名は握手以外はないと思った。

#### 【(生徒B)の振り返り②】

4月27日(火)

今日の授業のタイトル

3回目の握手について

今日の授業で一番大切だと思ったこと

3回目の握手では1回目と似ているということがわかり、安心させようという気持ちがある。この作品は「握手」というタイトル以外ありえない!

感想や質問、これからの決意など

3回目の握手について考えてみて、すごく伏線のある話だと思いました。たくさんの思いが込められていることが分かったので良かったです。

## 【(生徒 C)の振り返り②】

5月7日(金)

今日の授業のタイトル

最後の一文の主人公の心情

今日の授業で一番大切だと思ったこと

物語の最後の一文は、①ルロイに対する「わるい」  
②自分に対する「わるい」③病気に対する「わるい」  
④死に対する「わるい」、など様々な意味の「わるい」  
が込められている。

感想や質問、これからの決意など

最後の一文は、初めて読んだ時から何か意味がありそうと思っていたけど、何に対してとらえるかはそれぞれで、はっきり何に対してか書かれていないからこそ、読者に考えさせることができるのだと思った。

前年度の振り返りシートの記述と比べて、自分は何を学んだのかが、具体的な記述として表れるようになった。また、感想を書く欄を別に設けたことで、「学んだこと」と「感想」が混在することなく、記述されるようになった。また、「タイトル」を考えて書く欄には、どの生徒も端的に授業の内容を表すことができていた。授業全体を客観的に振り返ることにつながるため、学びをメタ認知することができているのではないかと感じた。

前年度の振り返りシートの形式では、単なる感想やしっかり取り組めたかどうかの自己評価の記述で終始していた(生徒 D)の記述は以下の通りである。

## 【(生徒 D)の振り返り②】

5月7日(金)

今日の授業のタイトル

私のつばやき

今日の授業で一番大切だと思ったこと

小説とか物語は“最初の文”と“最後の文”がすごく大事。

感想や質問、これからの決意など

私のつばやきをみんなはどう考えたのか早く知りたい。

このように、学んだことを具体的な記述でアウトプットできるようになった。さらに、「私のつばやきをみんなはどう考えたのか早く知りたい」(この時間は物語の最後の一文を、主人公「私」のつばやきに書き換える活動を行った)と、次時の学習に向けた記述もあり、「自らの学習を調整する」姿が表れている。

(生徒 D)は次の振り返りも書いている。

## 【(生徒 D)の振り返り②-2】

4月19日(月)

今日の授業のタイトル

ルロイ修道士の人物像

今日の授業で一番大切だと思ったこと

メロスみたいに「あれ?この言葉ってなくてもいいよな」みたいな言葉が結構あって、そこは大切になってくるんじゃないのかなと思った。

感想や質問、これからの決意など

人物像をしっかり読み取れるように頑張りたい。

単元内の「前後の学習のつながり」だけでなく、2年時最後の物語教材『走れメロス』と、3年時最初の物語教材『握手』と、単元を越えた「前後の学習のつながり」が見られた。

### ・「Ⅱ.学習前・後の本質的な問い」の有効性

先に述べたように OPP シートには「Ⅱ.学習前・後の本質的な問い」がある。「Ⅱ.学習前・後の本質的な問い」によって、生徒は自分自身の単元学習前と後の実態を把握することができ、それが学習によってどのように変容したのかが明らかになる。つまり、1時間1時間の振り返りで終始するのではなく、単元全体を通して自分は何を学んだのか、何を学べれば良かったのかを振り返り、アウトプットすることができる。

3年『握手』では、単元の本質的な問いとして「この物語の主題(テーマ)は何だと思いますか。」という問いを設定し、単元学習前後に生徒は自分の考えを記述した。生徒が実際に書いた記述は以下の通りである。

### 【(生徒 B)の「本質的な問い」に対する記述】

単元学習前(「この物語の主題(テーマ)とは」)

「思い出」握手で始まり、握手で終わっていて、昔との比較ができ、回想も多かったから。

単元学習後(「この物語の主題(テーマ)とは」)

「色々な意味」だと思いました。それぞれに意味があり、伏線もたくさんで、様々な解釈ができるのでそう思いました。

単元の学習を振り返って

僕は、深く読み取ることの大切さを学びました。僕が考えたこと以外にもたくさんの意味があったり、みんなの意見で気付けたりと、もっと読んでいけないといけないと感じることがたくさんありました。みんなの考えは大切ですが、できる限り自分で様々な考えを持たなきゃと思いました。

### 【(生徒 C)の「本質的な問い」に対する記述】

単元学習前(「この物語の主題(テーマ)とは」)

ルロイ先生との何回かの握手で主人公が感じるこ  
と。

単元学習後(「この物語の主題(テーマ)とは」)

握手や指言葉から、ルロイと「わたし」の互いに大切に  
思い合う心分かる。

単元の学習を振り返って

ざっと読むだけでは分からなかったけど、3回の握  
手がこの物語の中核であることや、最後の物語の終  
わらせ方にも意味があって、物語にまんべんなくヒ  
ントが散らされていて、文の作り方がうまいと思った。

まずは登場人物の人物像をうまく読み取り、そこ  
から言葉にはされていないけど、何か意味のありそ  
うな仕草や行動を推測して読み取っていきたい。

(生徒 B)の記述では、単元学習前の「思い出」とい  
う答えから、単元学習後には「色々な意味」という  
答えに変化している。これまでの授業の中で、物語  
の序盤と終盤の握手が単なる握手ではなく、伏線  
としての効果を果たしていることや、物語の最後  
の一文に様々な解釈があることを学んできたこと  
によって、このような記述の変容が見られたのだ  
と考えられる。また、「単元の学習を振り返って」  
の記述では、「できる限り自分で様々な考えをも  
たなきゃ」と、これからの学び方についての決  
意が書かれている。

(生徒 C)の記述では、単元学習前の「主人公が  
感じる」という抽象的な答えから、単元学習後  
には「ルロイと『わたし』の互いに大切に思い  
合う心」と、具体的な答えに変容している。単  
元の学習を振り返っての記述では、「まずは登  
場人物の人物像をうまく読み取り、そこから  
言葉にはされていないけど、何か意味のあり  
そうな仕草や行動を推測して読み取っていき  
たい。」と、これからの学習に向けた決意が  
書かれている。

これらの生徒の記述から、感想記述で終始する  
のではなく、何を学んだのか、自らの学習状  
況を把握するような記述ができるようになり、  
1 時間 1 時間の振り返りで終わるのでは  
なく、単元を通しての学びを積み上げるこ  
とができていることがわかる。また、昨年  
度までの実践と比較して、具体的な記述  
で生徒が自らの学びをアウトプットでき  
るようになり、さらに、これからの学  
習に向けて生かせそうなことを記述する  
こともできおり、「Ⅱ.学習前・後の本  
質的な問い」の有効性が感じられる。

### ・「OPP シート」の導入による教師の意識の変容

「OPP シート」の形式を取り入れたことによ  
って、生徒が何を学んだのかが振り返りシ  
ートに具体的に表れるようになった。教  
師である自分が「学ばせたかったこと」  
や「本時のねらい」が達成できているか  
どうか、明確に表れるようになり、本  
時学ばせたかったことを生徒が理解  
できているのか、生徒が正しく学ぶこ  
とができているのかが見えてくるよ  
うになった。これにより、教師であ  
る自分自身の【振り返り】の質が向  
上することにもなり、授業改善につ  
ながることができている。

また、「Ⅱ.学習前・後の本質的な問い」  
は、教師が単元の学習を行う前に考  
え、設定する必要がある。そのた  
めには、単元全体の教材研究を行  
ったり、単元計画をあらかじめ練  
ったりして、この単元の「本質  
的な問い」として何を設定する  
のかを考えなければならない。  
これは、教師自身が単元全体  
を見通して授業を行っていく  
ことにつながり、単元の学び  
の方向性がぶれず、芯の通  
った単元展開につながっている。  
生徒にとっても、この単  
元で何を学ばばいいの  
か、という意識が明確  
になっている。

このように「授業改善」という視  
点でも有効であると感じて  
いる。「OPP シート」とい  
う振り返りシートの形式は、  
「主体的に学習に取り組む  
態度」にとどまらず、様  
々な面で、指導と評価の  
一体化につながっていく  
のではないだろうか。

### ・「OPP シート」の ICT 活用

今年度2学期から、それまで紙  
媒体で用いていた OPP シ  
ートの形式を、一人一台  
端末である Chrome book  
を用いて、Google ス  
プレッドシート上に作成  
し、振り返り活動を行  
っている。記述する項  
目は、紙媒体のとき  
と同じである。

#### 【Google スプレッドシート上で作成した OPP シート】

|                      |            |  |                 |
|----------------------|------------|--|-----------------|
| 単元名                  |            |  |                 |
| 単元学習前の問い             |            |  |                 |
|                      |            |  |                 |
| 単元学習後の問い(単元の最後に書きます) |            |  |                 |
|                      |            |  |                 |
| 単元を振り返って(単元の最後に書きます) |            | 単元学習前と単元学習後で、あなたの考えや学びはどう変わりましたか。また、変わったことや変わらなかったことについてどう思いますか。本単元の学習を振り返って、これからの生かせそうな学びは何かを思い出しますか。 |                 |
|                      |            |  |                 |
| 日付                   | 今日の授業のタイトル | 今日一番大切だと思ったこと  | 感想、質問、これからの決意など |
|                      |            |  |                 |

OPP シートを用いた振り返りを Chrome book  
上で行うことでいくつかのメリットがある。

①回収・配布がスムーズに行えること。

②生徒がクラスメイトの振り返りをいつでも見られること。  
 ③生徒の振り返りをスクリーンに容易に提示できること。  
 ④教師がいつでもコメントを書けること。  
 等があげられる。①、④によって教師の負担が軽減されている。②のように生徒間の共有が容易になったことで、振り返りにどんなことを書けばいいかわからない生徒にとって、気軽にクラスメイトの振り返りを見ることができるよう、教師が介入せずとも、振り返りを書くための良い支援になっている。また、③のように生徒の振り返りをスクリーンに提示することが容易になったため、例えば授業導入時に前時の振り返りを提示したり、授業の終末場面で、全体で共有したい生徒の振り返りを提示したりして、活用している。良い記述を紹介することによって、どのようなことを書けばよいのか、どのような視点で学びを振り返ればよいのか、より明確になり、クラス全体の振り返りの質が高まっていく。

【Chrome book を用いた振り返りの様子】



3. 研究のまとめ

令和元年度実践

【方法】ワークシートの最終部分に「振り返り」の欄を設け、生徒が自由な視点で振り返りを記入する。  
 【良さ】導入から終末までの流れが1枚のワークシートで完結する。  
 【課題】「学びを蓄積する」「前後の学習とのつながり」という面で不十分。授業に対する感想に近い記述がほとんどになり、生徒としても何を書けばよいのか明確になっていない。

引用・参考文献

i 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程教育センター(2019)「学習評価の基本的な考え方」『学習評価の在り方ハンドブック(小・中学校編)』p.4

令和2年度実践

【方法】振り返りシートを用意し、「今日の○○」という観点を生徒自ら選び、記述する。  
 【良さ】生徒が振り返りの観点を自分で選ぶことができる。今日の授業で何を学んだのかが記述に表れる。1枚の振り返りシートに、学びが蓄積されていく。  
 【課題】単なる感想や、しっかり取り組めたかどうかの自己評価で終始する記述もある。「何を学んだのか」の具体に欠ける。「前後の学習のつながり」という面で不十分。

令和3年度実践

【方法】Google スプレッドシートを用いて、「OPP シート」の形式で振り返りを行う。  
 【良さ】何を学んだのかが具体的な記述で表れる。「学んだこと」と「感想」の記述が混在しない。これからの学びに向けた記述が表れる。1枚の振り返りシートに、学びが蓄積されていく。単元学習前と学習後の学びの変容が見える。教師側の負担軽減につながる。教師の授業改善につながる。生徒同士の共有、学び合いが容易にできる。  
 【課題】項目が多く、振り返りに費やす時間が増える。単元学習前と学習後の「本質的な問い」を教師が適切に設定する必要がある。

「OPP シート」という【振り返りシート】の形式は、“自らの学習を調整する”生徒の育成を目指すうえで、非常に有効な方法なのではないだろうか。

【振り返りシート】を工夫したり、充実させたりすることによって、生徒の記述は大きく変容する。新学習指導要領の実施によって、教師は生徒の“自らの学習を調整する”姿を評価していくこととなったが、それは指導と一体の評価でなければならない。【振り返りシート】の形式を変えることは、教師の指導を変えることにつながり、それは適切な評価へとつながっていく。これからも“自らの学習を調整する”生徒の育成を目指して、【振り返りシート】の研究を続けていきたい。

ii 同上 p.9

iii 同上 p.9

iv 堀哲夫(2019)『新訂 一枚ポートフォリオ評価 OPPA 一枚の用紙の可能性』東洋館出版社